

令和元年度(平成30年度実施事業分)事務事業評価評価票

No. 31-002

PDCA	事務事業名	旧中埜家住宅保存管理事業	部課等名	教育部 博物館	担当	榊原	
					内線等	23-7173	
P 総合計画との関係性等	政策体系	章： 第5章 育ち合い共生を進めるまち					
		節： 第2節 生涯学習の推進					
		基本施策： 3. 文化の継承と創造					
		単位施策： (1) 文化財の保存・伝承					
		個別施策： ①文化財の保護					
根拠法令等	文化財保護法						
対象・目的	旧中埜家住宅について、国の重要文化財として後世へ継承するため、適切な保存管理とより良い活用を図る。						
目的を達成するための手段・活動内容	H25 設計監理、耐震診断、地盤調査、解体工事 H26 設計監理、耐震設計、保存修理（構造補強含む） H27 設計監理、保存修理（構造補強含む） H28 設計監理、保存修理（構造補強含む） H29 保存管理・公開事業を行う上で必要となる最低限の設備及び備品等の整備、特別公開等 H30 保存管理、最低限の備品等の整備、特別公開、保存活用検討委員会の開催等 H31 保存管理、特別公開を始めとした公開活用事業、保存活用検討委員会の開催						
D 前年度の活動結果と見られた成果	活動結果	活動実績	28年度	29年度	30年度	単位	
		①設計監理、地盤調査、耐震診断、工事等	1	—	—	式	
		②特別公開開催日数	—	3	2	日	
		③					
		事業費	53,450	8,202	4,977	千円	
		人件費	5,082	5,711	5,825	千円	
		総事業費	58,532	13,913	10,802	千円	
		活動単位当たりのコスト	28年度	29年度	30年度	単位	
	①設計監理、耐震診断、構造補強設計等	3,639	—	—	千円		
	②保存修理工事	39,790	—	—	千円		
	③住宅用地借地料、報償費、委託料、備品購入費、その他工事等	10,021	8,202	4,977	千円		
	成 果	成果指標	28年度	29年度	30年度	単位	
		国の重要文化財として適切に保存管理され、特別公開等の活用がなされている。 ※本事業は、国の重要文化財である旧中埜家住宅を適切に保存し、後世に継承していくものであるため、数値的な目標設定は適切でない。そのため、目標が達成された状態を上記のとおり文書にて表記するものとする。	実績値	—	—	—	—
		目標値	—	—	—		
		実績値					
目標値							
実績値							
目標値							
C 課題の整理	観点別評価	必要性	有効性		効率性		
		①市の関与の妥当性	妥当	④上位施策への貢献	大きい	⑦コスト削減余地	ない
		②市民ニーズ	—	⑤成果向上の余地	ない		
	③休廃止の影響	大きい	⑥類似事業の有無	ない	⑧受益者負担適正化余地	—	
	事業の評価・課題	A					
		建物への理解を深め、適切に後世へ継承するべき貴重な文化財であることを伝えるため、11月に第2回特別公開を開催し、文化財への親しみを育むとともに、市民の文化財保護意識の向上を図った。また、保存活用検討委員会を設置し、この先の重要文化財建造物として適切な保存、活用及び整備のあり方について検討を行った。 今後は、保存活用方法の決定と建物を後世へ継承するための適時適切な保存修理が必要である。					
	A 課題解決のための目標	今後の事業の方向性	改善推進				
		令和元年度の目標	今後も建物の保存管理、特別公開を始めとした公開活用事業を実施する。 また、これらと並行して、保存活用検討委員会を開催し、この先の重要文化財建造物として適切な保存、整備及び活用のあり方について検討を進め、基本方針を策定する。			目標値	単位
			成果指標 国の重要文化財として適切に保存管理され、特別公開等の活用がなされている。 ※本事業は、国の重要文化財である旧中埜家住宅を適切に保存し、後世に継承していくものであるため、数値的な目標設定は適切でない。そのため、目標が達成された状態を上記のとおり文書にて表記するものとする。			—	—